

【エクアドル政務・経済・外交：2025年4月】

1. 内政

(1) エクアドル総選挙(選挙管理委員会(CNE)による公式発表)

(ア) 7日、選挙管理委員会(CNE)は、大統領選挙同日に実施された国会議員選挙の最終結果を公式発表した。なお、CNEのHPでは、各党の獲得議席数の正式発表はされていないものの、同月9日付当地主要紙「エル・ユニベルソ」紙が、CNE公表のデータを基に算出した数値は、以下(イ)のとおり。

(イ) 国会議員選挙(151議席)

ア 市民革命党(RC)・RETO運動: 67議席

イ 国民民主行動同盟(ADN): 66議席

ウ パチャクティック党(PK): 8議席

エ キリスト教社会党(PSC): 4議席

オ コンストウルジェ党: 1議席

カ 我々はカルチェンセス(Somos Carchenses): 1議席

キ 更なる団体党(Unidos Somos Mas): 1議席

ク SUR運動: 1議席

ケ 人々の結束(Gente Buena Unidad): 1議席

コ 市民の合意(Acuerdo Ciudadano): 1議席

2. 外交

(1) ノボア大統領の外遊予定

24日、ノボア大統領は、大統領令612号により、今後の外遊予定を発表したところ、概要は以下(イ)～(ウ)のとおり。なお、ノボア大統領は、ローマ教皇フランシスコの崩御を受け、22日～24日の3日間を服喪期間と定めたほか、バチカン市国における葬儀に出席予定。

(イ) エクアドル政府は、欧州、中東及びアジア諸国との外交、協力及び貿易関係の強化に関心を有している。

(ウ) 従って、4月24日～5月9日のノボア大統領のバチカン市国、スペイン、アラブ首長国連邦、サウジアラビア、イスラエル、英国及びフランス訪問に、以下の一行が同行することを宣言する。

(1) 大統領府行政官房長官

(2) 公共性保全庁長官

(3) 大統領府報道官

(4) 外務・移民大臣

(5) 生産貿易投資漁業大臣

- (6)運輸公共事業大臣
- (7)経済財務大臣
- (8)エネルギー・鉱物資源大臣
- (9)都市開発・住宅大臣
- (10)国防大臣
- (11)内務大臣
- (12)戦略情報センター長官

(2)ノボア大統領のトランプ米大統領との会談

(ア)28日～29日、ノボア大統領は、バルボネシ夫人及びソメルフェルド外相と共に米国を訪問し、29日にトランプ米大統領と会談を行ったところ、外務省公式 SNS 上での投稿概要は以下(イ)～(ウ)のとおり。なお、今次首脳会談に関する公式な発表はされておらず、ノボア大統領が自身の SNS 上にて、トランプ米大統領、ノボア大統領、バルボネシ夫人とで写った写真を掲載したのみである。

(イ)29日、ノボア大統領は、マイアミにおいて、エクアドル人移民コミュニティとの感動的な会合に出席した。海外のエクアドル国民を支援するためのエクアドル政府の取り組みについて共有された。ノボア大統領は、多大なる尽力により、エクアドルを、強制送還の優先リストから除外することができたことを強調した。また、エクアドル政府は、帰国した国民に対し、奨学金及び支援プログラムに優先的にアクセスできるようにしているほか、基本給3ヶ月分を支給するプログラムを既に実行中である。

(ウ)同日、ノボア大統領は、フロリダにおいて、エクアドル人コミュニティとの会合を行った。ノボア大統領は、ソメルフェルド外相と共に、エクアドル国民の要望を聴取したほか、海外での領事サービスのデジタル化について報告した。

3. 経済

2024年GDP成長率の発表(中銀(BCE)プレスリリース)

(ア)15日、当國中銀(BCE)は、2024年の GDP 成長率(速報値)を発表したところ、概要以下(イ)～(キ)のとおり。

(イ)2024年の当国 GDP 成長率(速報値)は2.0%減を記録した。内訳として、家計消費が1.3%減、政府消費が1.2%減、総固定資本形成(GFCF)が3.8%減となり、輸出は年率1.8%の伸びで GDP のプラスに寄与するものの、輸入が1.7%増加した。

(ウ)産業別の場合、GDP を構成する20項目のうち、プラス成長したのが5項目であり、農業・畜産業・林業が3.1%増、金融・保険業が1.3%増、不動産業が1.3%増、保健衛生・社会事業が0.3%増、食品製造業が0.2%増となった。

(エ)また、昨年の GDP 経済成長率を左右した主なファクターとしては、治安状況、ヤスニ-ITT 鉱区における原油採掘の停止の進展、2025年総選挙を背景とする内政の

不安定、干ばつ等が挙げられる。尚、BCE は、干ばつを背景とするエネルギー危機により、19億1,600万ドル(GDP 比1.4%減)の経済損失が生じたとした。中でも大きいのは、商業で7億6,310万ドル、製造業で3億8,020万ドル、サービス業で3億7,410万ドルの経済損失があったとした。

(オ)2024年第4四半期の GDP 成長率は0.9%減(前年同期比)を記録し、これは主に GFCF が2.6%減、政府消費が0.8%減、輸入が3.7%増によるものであった。一方、輸出は3.5%増、また、家計消費は0.2%増となった。更には、2024年第3四半期と比較し、同年第4四半期は1.3%増を記録した。これは、特に GFCF が3.0%増、輸出が2.6%増、家計消費が1.5%増となったことによるものであり、一方の輸入は3.1%増となった。

(カ)BCE は、2025年の GDP 成長率の見通しを2.8%とした。右は、①融資と労働市場の改善による家計消費の回復、②非石油製品、特に非伝統的製品と農業部門の輸出パフォーマンスの向上、③マクロ経済の安定と構造改革の推進に支えられた公共・民間投資の増加によるものとした。

(キ)他方、今年のエクアドル経済は、治安や財政状況、更には、新たな関税措置を背景とする世界的な景気後退の危機に係る原油価格の急落をはじめとする、外的要因等、重要な局面に直面している。